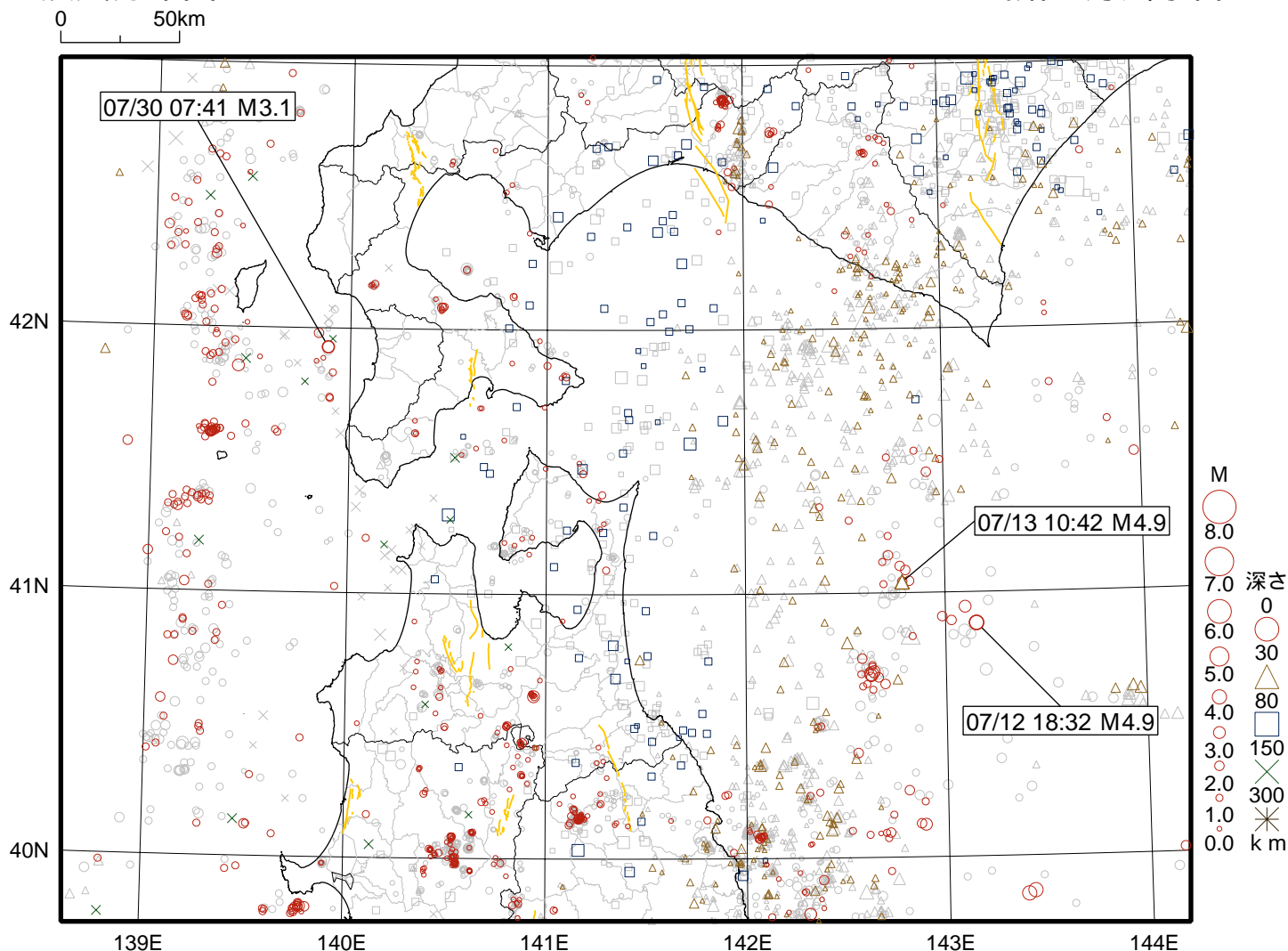


渡島・檜山地方の地震活動図

2020年7月1日～2020年7月31日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
記号Mはマグニチュードを、図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。
過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

地震概況（2020年7月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（6月は1回）でした（詳細は「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

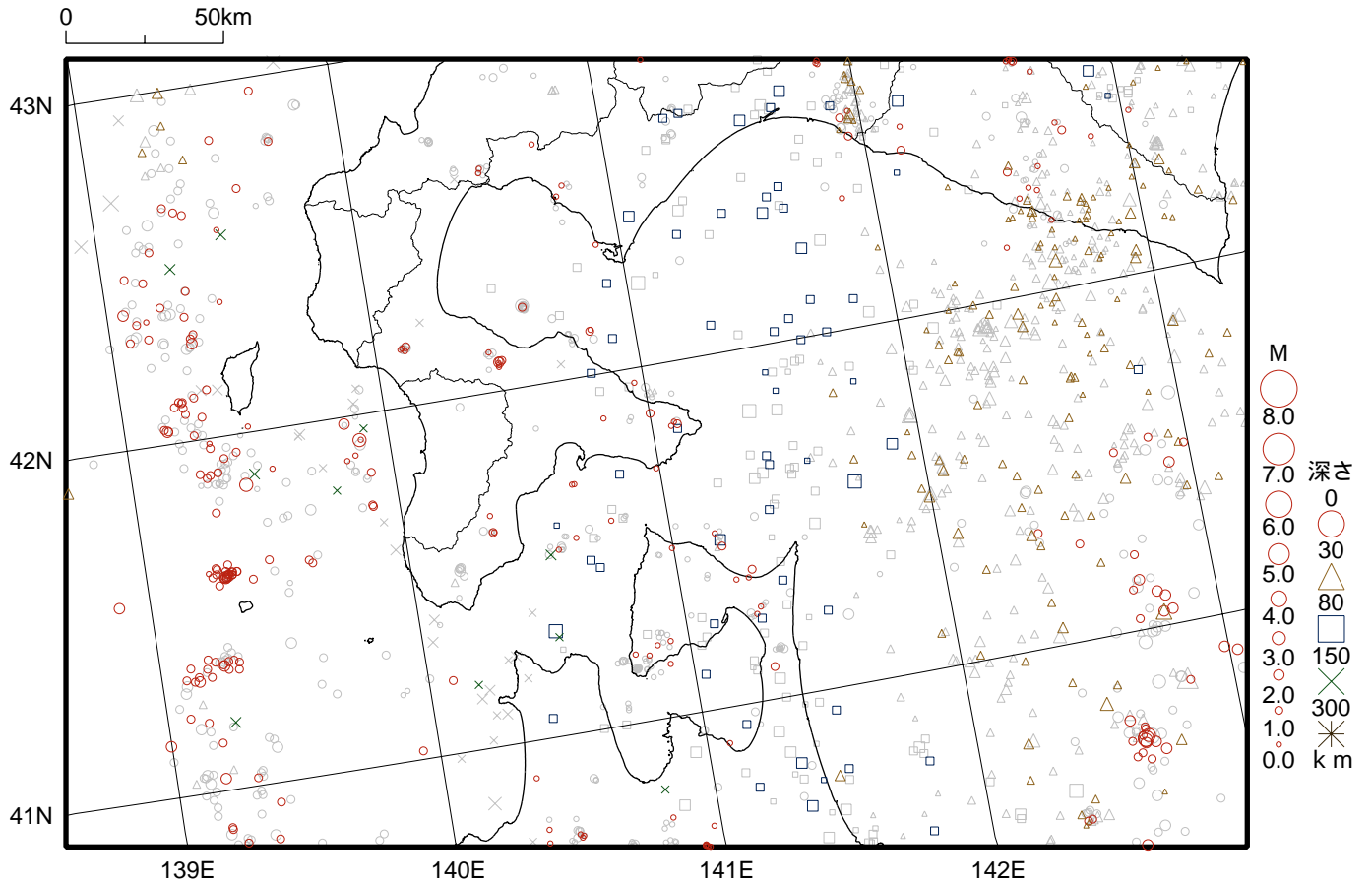
12日18時32分、青森県東方沖の地震（M4.9、深さ22km）により、函館市泊町で震度2、函館市新浜町で震度1を観測しました。

13日10時42分、青森県東方沖の地震（M4.9、深さ31km）により、函館市泊町、函館市新浜町で震度2、函館市美原、函館市日ノ浜町で震度1を観測しました。

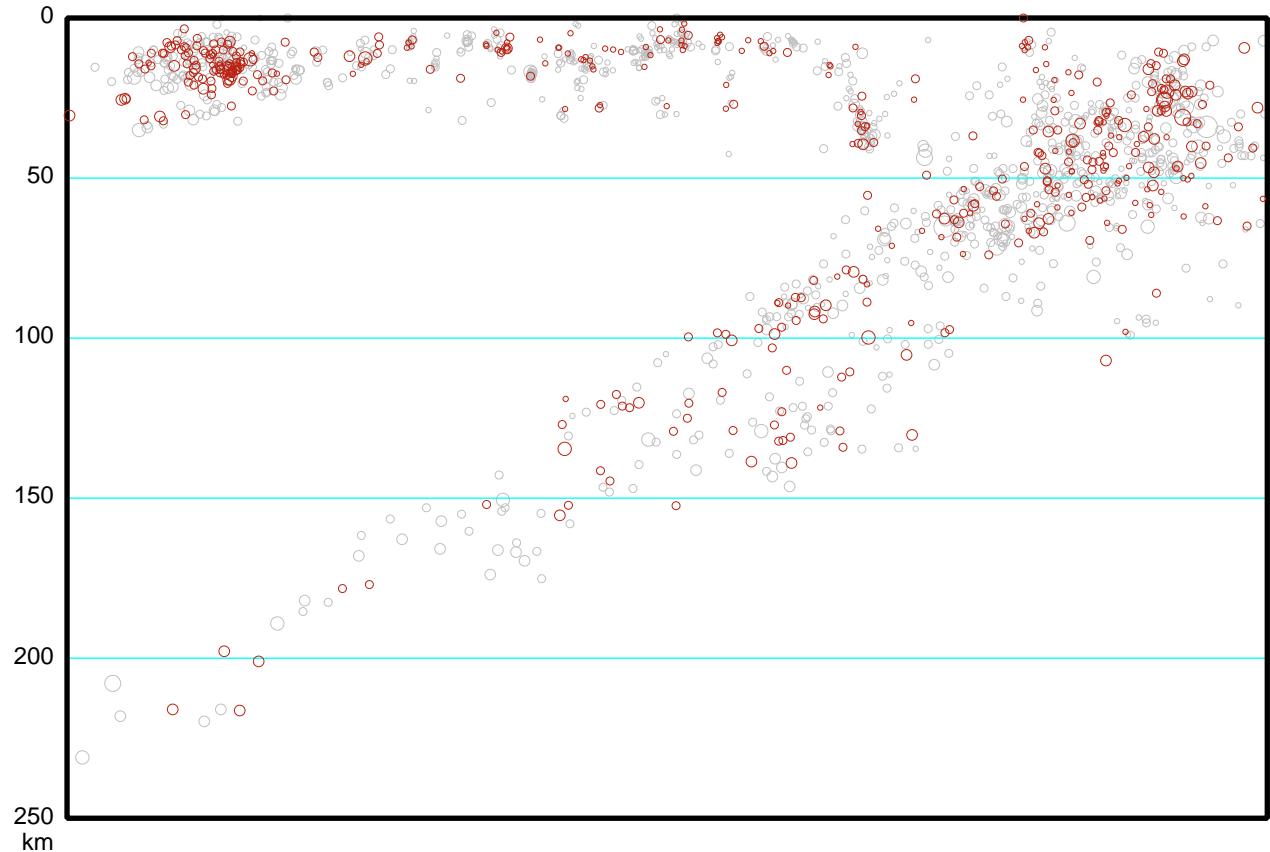
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2020年7月1日 ~ 2020年7月31日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

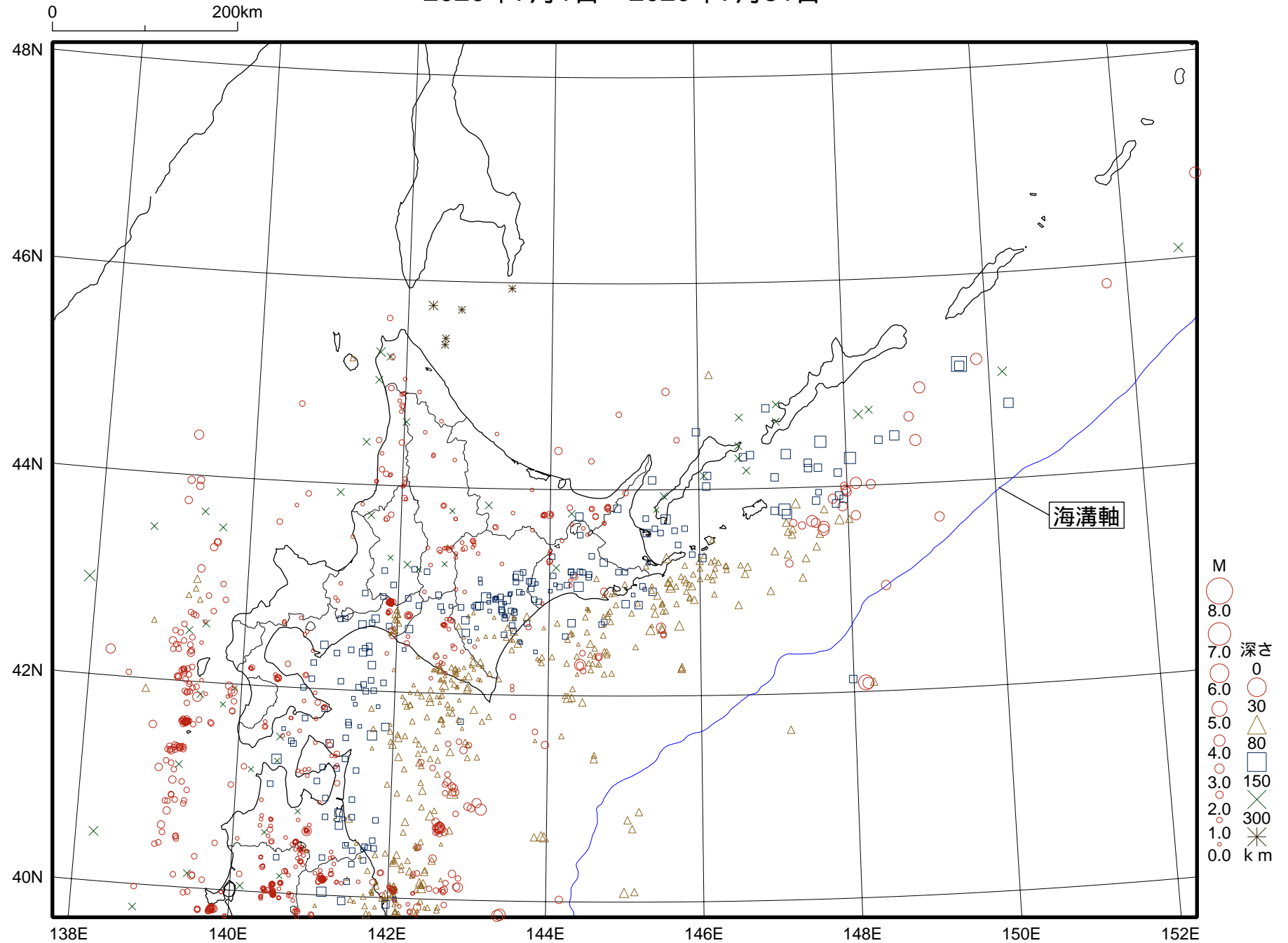
2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

北海道の地震活動図

2020年7月1日～2020年7月31日

札幌管区気象台

震央分布図



2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年7月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2020年 7月12日 渡島地方	18時32分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (16) 函館市新浜町 * (12)	40° 52.9 N	143° 09.3 E	22 km	M4.9
2020年 7月13日 渡島地方	10時42分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 函館市泊町 * (18) 函館市新浜町 * (21) 函館市美原 (06) 函館市日ノ浜町 * (10)	41° 02.4 N	142° 47.1 E	31 km	M4.9
2020年 7月30日 檜山地方	07時41分 震度 1	北海道南西沖 乙部町緑町 * (07)	41° 55.6 N	139° 53.2 E	13 km	M3.1

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

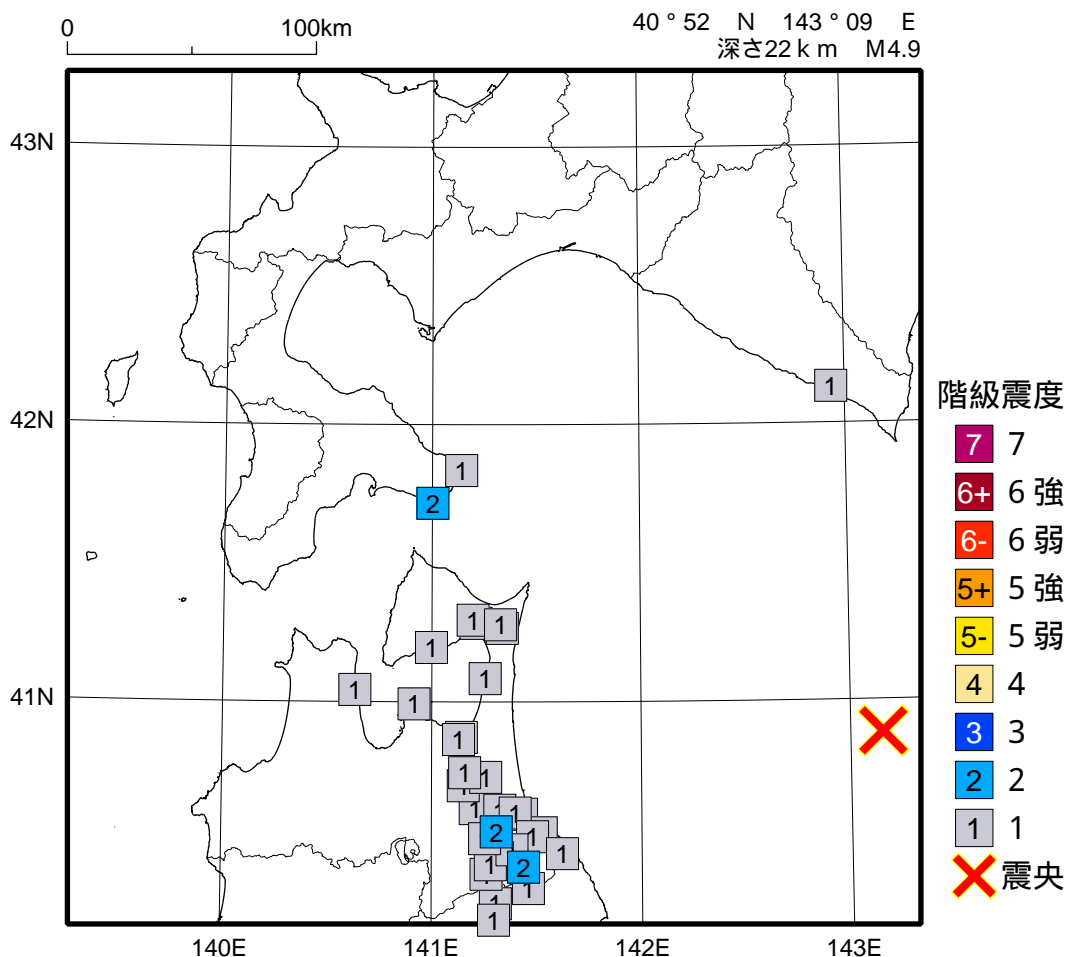
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

計測震度と震度階級の関係

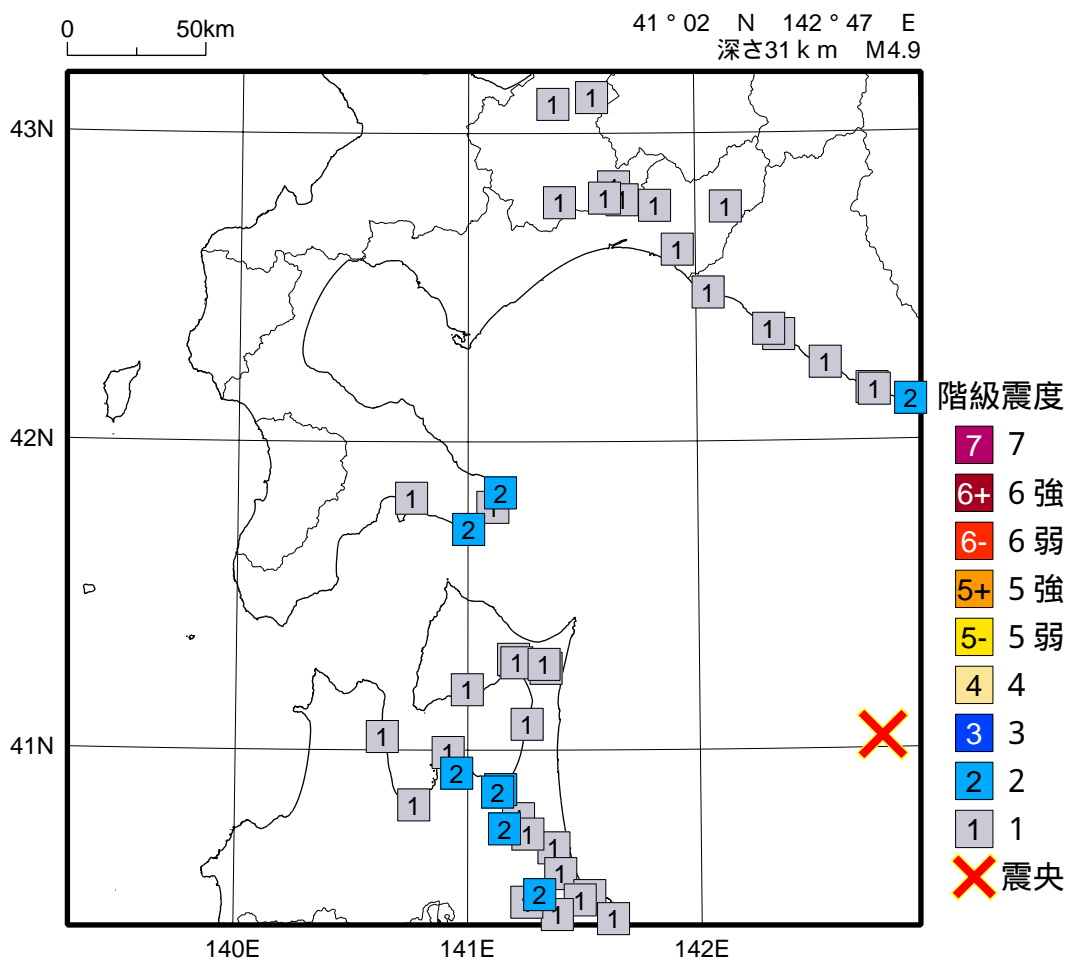
計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

2020年 7月12日18時32分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2020年 7月13日10時42分 青森県東方沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～遠地地震・遠地津波について～

●遠地地震に関する情報

国外で発生した地震を「遠地地震」といい、この遠地地震に伴う津波を「遠地津波」と呼んでいます。

気象庁では、国外でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合や、著しい被害が発生した可能性のある地震を認知した場合などに、地震の発生から30分程度をめぐりに「遠地地震に関する情報」として、地震の発生時刻、発生場所（震源）およびその規模（マグニチュード）、日本や国外への津波の影響や観測状況について発表しています（図1）。

●遠くからも伝わる津波

一般に津波は、その発生源（波源）から遠ざかると影響は小さくなりますが、非常に大きな津波の場合は、はるか遠くまで伝わって大きな被害をもたらすことがあります。また、遠くからやってくる津波は、途中の海底地形や陸地の影響を受け反射・散乱を繰り返しながら複雑に変化し、津波が長時間継続するほか、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。さらに、近海で発生した津波と同様に、岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形では、波が集中して高くなるので特に注意が必要です。

●津波警報等の発表と避難行動

遠地地震の場合には、揺れを直接感じることはなく、また地震発生から津波が到達するまで時間的猶予があることもあり、遠地津波に対しては油断しがちです。過去の代表的な事例として、1960年（昭和35年）の「チリ地震津波」では、北海道太平洋沿岸で4mを超える津波の来襲により大きな被害が出ました（写真1）。このとき、津波の第1波は地震発生から約22時間半後に日本へ到達しています。

気象庁は、遠地津波に対しても日本沿岸での高さを判断して、津波が到達する数時間前を目安に津波警報等を発表します。津波警報等が発表された場合は、遠く離れた外国で発生した津波であっても決して油断せず、津波警報等が解除されるまで避難行動をとり続けてください。また、海水浴場や海岸付近で「津波フラッグ*」を見かけた場合も、速やかに避難してください。

※ 津波フラッグについて、前号の防災メモや気象庁ホームページ（以下URL）で解説しています。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html



図1 遠地地震に関する情報の例（気象庁HP）

https://www.jma.go.jp/jp/quake/quake_foreign_index.html



写真1 1960年チリ地震での津波の様子(函館棧橋駅前)
(気象庁職員撮影)